

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	1273600377
法人名	社会福祉法人 北斗泰山会
事業所名	グループホームあいや
訪問調査日	平成 20 年 6 月 24 日
評価確定日	平成 20 年 7 月 22 日
評価機関名	測定非営利活動法人 日本高齢者介護協会

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	1273600377
法人名	社会福祉法人 北斗泰山会
事業所名	グループホーム あいや
所在地 (電話番号)	〒270-1337 千葉県印西市草深 1132-8 (電話) 0476-48-5780

評価機関名	日本高齢者介護協会 千葉支部		
所在地	〒263-0012 千葉市稲毛区萩台町 696-132		
訪問調査日	平成20年6月26日	評価確定日	平成20年7月22日

【情報提供票より】(平成20年 5月24日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17 年 7 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤	4 人, 非常勤 14 人, 常勤換算 5.9 人

(2) 建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	鉄筋造り	
	2階建て	1階 ~ 2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000 円	その他の経費(月額)	水道光熱費16,000円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	300,000 円	有りの場合 償却の有無	有(3年)
食材料費	朝食	200 円	昼食 400 円
	夕食	400 円	おやつ 50 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(5月24日現在)

利用者人数	18名	男性	2名	女性	16名
要介護1	6名	要介護2	5名		
要介護3	4名	要介護4	2名		
要介護5	0名	要支援2	1名		
年齢	平均 81歳	最低	72歳	最高	95歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	千葉ニュータウンクリニック 宮本歯科医院
---------	----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

印西市の郊外に平成17年7月に開設された2階建て鉄筋造り2ユニットのホームです。これまでの介護施設の経験を活かし利用者に配慮された造りになっており、明るくゆったりとしたリビングで利用者が生き生きと過ごしているのが印象的です。ホームの特徴は理念にも掲げています「家庭的な雰囲気の中で自立した生活ができるようお手伝いする」ですが、実際職員の方々は明るく親切に家庭的な雰囲気の中で介護しており、アンケートでも「家庭的な雰囲気の中で職員の方々は優しく、明るく対応して下さり感謝しています」との多数の声が寄せられています。又近くの介護老人保健施設やクリニックと提携関係にあり、利用者の医療面で強みをもっています。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回課題は大幅に改善しました。課題の「地域とのつきあい」は、幼稚園との交流、民生委員団体の見学受け入れ、「家族への報告」は、毎月手紙で家族へ利用者の健康、暮らしぶりを報告、「家族の意見反映」は運営推進会議の開催、介護相談員受け入れによる家族の意見反映、「災害対策」では消防署を呼んでの消防訓練、等を実施しています。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者は職員と相談して今回自己評価表を作成しており、課題の共有を図っています。</p>
重点項目 ②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>平成19年3月、平成20年3月に市担当職員、町内会長、民生委員、家族代表、利用者、法人代表、ホーム管理者で開催しています。当初はホームの概要、施設見学、介護保険制の説明をし、現在はホームが行っている取り組み、外部評価の結果報告、地域とのつきあいでの協力依頼などを行っています。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族への報告は、訪問時や毎月の手紙、年4回のホーム新聞等でしています。又家族の意見汲み上げは、家族の訪問時に聞いたり、意見箱の設置や苦情受付担当を決めて掲示したり、運営推進会議を開催したり、介護相談員を受け入れたりして、家族、利用者の意見・要望を汲み上げてサービスの向上に反映しようと努めています。</p>
重点項目 ③	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>人家がまばらな地域町内会に入会できるよう運動しており、1月に近くの幼稚園との交流を始め、6月に民生委員30名の見学を受け入れ、7月にボランティアによる催物を予定したりして、地域との交流に努めています。又運営推進会議で町内会長や民生委員に地域の行事に参加するための協力をお願いしています。</p>
重点項目 ④	

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「地域の方達とふれあいを持ちながら、家庭的な雰囲気の中で自立した生活ができるようお手伝いする」をホームの理念としています。地域密着型のグループホームの主旨に沿った良い理念です。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	各階に理念を掲げ、皆で確認しながら毎日の打合せ、月1回の職員会、学習会を実施しています。職員が日頃の介護サービスで理念を実践するよう努力していることが、アンケートでも分かりますし、今回の調査でも実感されました。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	人家がまばらな地域町内会に入会できるよう運動しており、1月に近くの幼稚園と交流を始め、6月に民生委員30名の見学を受け入れ、7月にボランティアによる催物開催を予定したりして地域との交流に努めています。又運営推進会議で町内会長や民生委員に地域の行事に参加するための協力をお願いしています。	○	町内会に入会して、町内会の行事(8月の祭りなど娯楽的な行事ばかりでなく、掃除、草取り、花植えなどの地域に貢献する行事)に積極的に参加する一方、年1回ホーム祭りのようなイベントを開催し、ホームを開放していけば、地域の方のホームへの理解も深まり、自然と交流が進むものと期待されます。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価を活かし改善しています。前回課題の「地域とのつきあい」は、幼稚園との交流、団体見学の受け入れを図り、「家族への報告」は、毎月手紙(健康、暮らしぶりの報告)を送付し、「家族の意見反映」は運営推進会議の開催し、介護相談員を受け入れ、「災害対策」は昨年1月に消防署を呼んだ訓練を実施しています。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	平成19年3月、平成20年3月に市担当職員、町内会長、民生委員、家族代表、利用者、法人代表、ホーム管理者で開催しています。当初はホームの概要、施設見学、介護保険制の説明をし、現在はホームが行っている取り組み、外部評価の結果報告、地域とのつきあいの協力依頼などしています。	○	運営推進会議の意義を理解し、当面半年に1回定期的に開催する事が望めます。その際、地域包括支援センターにも声をかけ、テーマについても、現在実施している項目に加え、グループホームへの理解を深める項目や事業所が主催する老人健康勉強会の項目等を取り上げていけば、一層充実した会議になるものと思われれます。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	他県他市のグループホームで起きた事故等を市の担当者と話し合い、事故防止に努めています。又運営推進会議に市担当者に出席頂いたり、介護相談員を受け入れたりして市との連携を図っています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	職員は家族に、訪問時や必要に応じて電話で状況報告しています。又毎月家族へ手紙を出し、健康状態・暮らしぶりを報告しています。金銭は預からず立替支払いをしておき、毎月請求書と一緒に立替金請求書を家族に送付しています。年4回ホーム新聞を発行し、利用者の暮らしぶりや行事状況等も報告しています。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員は家族の訪問時に意見・要望を聞くようにし、意見箱の設置や苦情受付担当を決め掲示したりして、家族の意見、要望を汲み上げ反映しようと努めています。又運営推進会議を開催したり介護相談員を受け入れて、家族、利用者の意見、要望を外部者にも聞いて頂くようにして、サービスの向上に努めています。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は比較的少ないですが、異動の際は家族に手紙で連絡し、利用者には、各個人に合わせて、直前にさりげなく伝えたり徐々に伝えたりして、利用者のダメージが最小限になるよう配慮しています。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人が入った時は、新人マニュアル、総括講義を1日受け、約1ヶ月ベテランに付き添って実地研修を受けることになっています。社内研修は、毎月担当を決め勉強会をしています。外部研修(法人内研修)は管理者が職員に参加を促し、受講料・交通費は事業所負担で、出張扱いになっています。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は月2回関係ホームの管理者と情報交換の場を設け、サービスの向上に努めています。又職員は年2回グループ内関係事業所との交流に参加し情報交換しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居に際しては、家族と相談の上、まず本人・家族共々施設を訪問します。利用者が納得の上で入居されるため、殆どの方が馴染むまでにはあまり時間がかかることなく、人によってはその日の内に施設に馴染んで行かれます。冷蔵庫をはじめ今まで使い慣れた家具の多くが持ち込まれています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	毎日が張りのある生活になるよう利用者によく話し合い、共に過ごせる関係を築いています。利用者の希望(畑をやりたい。花に水をやりたい。掃除がしたいなど)が生活に反映されるスケジュールを組み、2～3ヶ月ごとに見直しています。お互いに小さなことでも共有し、職員は利用者の知識を教わりながら過ごしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常に利用者本位の立場で、十分話し合える時間を作っています。月一回の個別の話し合いで本人の思いを把握し、暮らし方の希望を取り入れ、生活方法に満足がいくよう情報収集に努めています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	センター方式という書式方法に沿って利用者の意向を介護プランの中に取り入れ、短期目標に組み入れています。日々の情報をもとに管理者との月一回の話し合いで個別の計画を決定しています。家族、職員からの意向を日々の連絡帳に記入し改善点をケアプランに反映しています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	連絡帳を有効利用し、家族の意向を担当者会議に反映させ見直しています。必ず3ヶ月毎に見直しの為の会議を開いています。本人、家族、関係者の意見をもとにケアプランを新たにしています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療機関での受診に家族が付いて行けないときには、職員が付き添いのサービスをしています。また、市役所主催の文化祭や文化ホールで行われる催し物がある時には、好きな人の参加を募り、観劇に付き添っています。「コーラス」や「フラメンコ」「ダンス」などを鑑賞しています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	リアルタイムで進行するチャットを使用した提携医療機関との受診支援をしています。往診は月2回、訪問看護は週1回で対応されています。医療関係者と利用者との接触が毎回あり、細かな変化に対応しています。かかりつけ医や歯科受診は、その都度適切な医療が受けられるよう支援しています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	緊急時や体調の変化に応じた対応がとれるよう、家族や利用者の希望方針を施設職員が共有しています。入居後の日々の変化に対応して、同じ視点で周りがサポートできるよう「延命処置の要望書」を書いてもらっています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居時に個人情報保護の方針に添って同意書をもらい、プライバシーを遵守しています。データ管理は、責任者がパソコンで行い関係者以外はみられないようロックされています。言葉かけに注意し、誇りを傷つけない対応を職員同士で注意しています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の気持ちに沿った一日が過ごせるよう、その人に合わせて支援しています。起床から就寝までの決められた時間の中で利用者ペースの生活が送れるよう支援しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	他の4連携施設と共有した持ち回りの月間献立を使い、業者からの食材搬入をしています。利用者にヒヤリングをして各々の好みに添う自由献立を織り交ぜています。もやしのひげ取りなど下ごしらえや後片付け、食器洗いなど希望する利用者と共にしています。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	午後1～2時頃より個別に入浴をされています。希望すれば毎日入ることも出来ますが、基本的に3日毎の利用です。入らない時には清拭対応しています。入浴拒否のある方には理由を尋ねて、「どう洗って良いか分からなくなってしまった」などの答えに添って介護方法の改善を入浴サービスに取り入れています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	「手すり拭き」「食器洗い」「草むしり」など個別目標を立てて、役割と気晴らしを楽しみに換えています。また、月一回のペン習字、カラオケ、コーラスなど歌を唄ったり、ぬり絵などで楽しまれ、最近ではカルタが流行って楽しまれています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	晴れの日には、近場の散歩で'あいや'所有の畑やコンビニなどに出かけるなど、戸外に出かける支援をしています。畑ではジャガイモなど管理が簡単な作物を植えています。「シルバービラ祭」「4月の花見」「11月の外食会」などには、小林牧場や回転寿司店に車で遠出しています。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	現在は徘徊者がいないこともあり施設内での扉は、鍵なしでオープンにされていますが、共用玄関は押しボタン仕様になっています。施設の前が国道のため、利用者の安全を配慮し介護者の目が届くようされています。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	平成19年11月に消防署を呼んだ消火訓練、平成20年6月に事業所内の避難訓練を実施しています。事務所には緊急連絡表、対応表が掲示され、施設には熱煙探知機、消火器、緊急直通電話が設置されています。又、非常口も明示され、2階の非常階段には手すりがあり、幅も車イスが操作できる余裕があります。	○	年2回定期的に消防訓練(1回は消防署を呼んだ消火訓練、1回はホーム内職員と利用者からのみの避難訓練)の実施が望まれます。消防署を呼んだ消火訓練には、救命救急法の講習会などを企画し、町内会にも声をかければ、理解と今後の協力も期待できるものと思われれます。又数年間に1回程度夜間訓練の実施も検討の余地があります。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	夏場や冬場に脱水で点滴を受ける人もあり、3食、10時、3時、夜間などに水分摂取を促しています。好き嫌いには食べ残しを配慮し、栄養バランスを考えた別な料理を提供するようにしています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が居心地よく過ごせるように配慮された造りになっています。窓が大きく明るく、外の緑がリビング、居室の窓から見え心地よく感じます。又中庭の緑と空間が癒しの雰囲気を作ってくれています。回廊のてすり、階段・非常階段のてすり、エレベーター前の長椅子、憩いの場の畳部屋など配慮されており、利用者がリビングで快適に楽しく過ごしているのが印象的です。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者は自分の部屋に使い慣れた物や思いのある物(箆笥、椅子、写真、お人形、絵など)を持ち込み、居心地よく過ごしています。殆どの利用者がテレビ、冷蔵庫を持ち込み、自分の家と同じように過ごせるよう配慮されています。		